

阿南 ぶらりまち紀行

第158回

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見!



男性も主体的に家事参加
「男性料理教室」



調理前にしっかりと説明を受ける



仲間と一緒に楽しく調理

「家事は女性の仕事」といった意識を変え、男性も主体的に家事参加することをめざし、まず料理から始めようと男性料理教室が実施されています。現在は、ひまわり会館にて、毎年5〜7月（前期）に6回、10〜12月（後期）に6回、年間で12回開催。中高年を中心に人気で毎回20〜30人が参加しています。

10月29日に行われた料理教室の献立は、ギョウザ、春雨サラダ、ザーサイのスープ、カボチャの茶巾しぼりでした。早めに来た参加者たちは、固いカボチャをカットする女性スタッフを気遣って代行したり、米を研いだり、いす・机や調理器具・食器などを出したりと率先してスタッフを手伝っていました。

最初に、講師で管理栄養士の橋本雅代さんが調理の説明・コツを参加者に伝授。その後の調理も和気あいあいとした雰囲気がとても楽しそうで、スタッフの冗談に笑いが起こり、質問もその都度行われていました。参加者は教えてもらった内容をメモし、配られた献立表を見て周囲と話し合いながら、調理を進めています。



おいしいなギョウザとスープ



完成まであと少し!

た。時には、ギョウザの火加減や湯を加えるタイミング、茶巾しぼりの水気に苦戦する場面も。初めて挑戦する献立に、先生を呼ぶ声がよく聞かれましたが、その様子は熱心そのものでした。

息子夫婦が共働きで孫のために週2回の夕飯を担当しているという、篠原秀幸さん（73歳・羽ノ浦町）は、「ギョウザのはねが、先生がしたようにはうまくできなかつたが、味はおいしい。教室で学んだ料理を孫に作ってくれとねだられる。これからも積極的に家事を頑張りたい」と話していました。

男性料理教室を企画する男女共同参画室長 長谷由里さんは、「本市で男性料理教室を開始して20年以上経過しました。本教室をきっかけに、家事は男女が共同して行うことだという認識が社会全体に浸透することをめざしたい」と意気込んでいました。

今年度の男性料理教室は終了しましたが、「男性のためのおかし&おすし教室」の参加者を1月6日(月)から募集します。くわしくは、22ページをご覧ください。